「Ｔｈｅ　Ｎｅｗ　Ｔｉｍｅｓ」（英字日刊紙）の主要報道

２０１１年１０月

在ルワンダ大使館

（１）内政

ア　上院議員の選出：政党フォーラム及び大統領推薦による上院議員の選出が行われ,後者の枠で，マクザ首相が上院議員に指名された。また,上院議長にはンタウクリヤヨ前下院副議長，副議長にはマクザ前首相及びガクバ元キガリ副市長が選出された。

イ　小規模内閣改造：１０日，カガメ大統領は，上院議員に指名したマクザ首相に代わり，ハバムレミ教育大臣を新首相に任命した。また，先般逝去したクリスティン・ニャタンイ前大臣に代わり，アルベラ・ムカバランバ共同体発展・社会問題担当大臣，コレット・ウィネザ・ルハムヤ前大臣に代わり，エマ・フランソワーズ・イスンビンガボ・エネルギー・水担当大臣を任命した。

ウ　インガビレ統一民主勢力（ＵＤＦ）インキンギ党党首の裁判：インガビレ党首の裁判において，９月末に同党首の弁護団が域外管轄権及び法の不遡及性につき追及したことに対し，検察は，これらの言い分は，裁判により真実が暴かれることを阻止するための策略であると批判した上で，同党首が裁けない法的理由はない旨主張した。

エ　ルウィゲマ元首相のルワンダ帰還：２３日，ルウィゲマ元首相が亡命先のアメリカから１１年ぶりに帰国した。同元首相は，これまでルワンダに対する批判を繰り返していたことに対し，記者会見にて謝罪し，ルワンダの発展に貢献したいという思いから帰国を決意した旨述べた。

オ　世界ガバナンス指標（世銀）：世銀の世界ガバナンス指標（ＷＧＩ）が発表され，ルワンダは，アフリカ諸国の中ではモーリシャス，カーボベルデ，ボツワナに次ぐ４位であった。ンジンドゥキイマナ国家オンブズマン代行は，ルワンダは汚職を許さないという意識の高い指導者を持ち，ガバナンス指標の高さは誇るべきものであるが，この結果に満足することなく更に上を目指したい旨述べた。

（２）経済

ア　燃料価格の下落：１日，燃油（ガソリン・ディーゼル）価格が値下がりした。これは，国際的な燃料価格の上昇に伴い，国内の燃料価格も上昇していることを受けたものであり，貿易産業省は，国内価格の上限を１Ｌあたり１，０００ＲＷＦ（約１．７米ドル，１米ドル＝６００ＲＷＦ）とすることと定めた。

イ　経済成長率：ルワンダ中央銀行は，今年の経済成長率につき，当初７．０％を見込んでいたが，８．８％に上方修正を行った。ガテテ中央銀行総裁は，１月から８月までの成長率のうち，工業セクターが１５．１％，農業及びサービスセクターもそれぞれ８％以上の順調な成長を記録しているため今次の修正に至った旨述べた。

ウ　輸出：昨年６月から今年７月にかけ，輸出額が４３％増えたことが，共同セクターレビューにおいて明らかになった。今年７月の貿易額は１，８１０億ＲＷＦ(約３．０２億米ドル）であり，うち７６％はコーヒー及び紅茶の伸びによるものである。カニンバ貿易産業大臣は，コーヒー及び紅茶の国際価格の影響もあるが，マクロ経済の安定した成長が輸出全体の増加を下支えしている旨述べた。

エ　世銀ビジネス環境報告書：２０日，世銀のビジネス環境ランキングの報告書（２０１２年）が発表され，ルワンダは昨年の５８位から４５位に上昇し，アフリカ諸国の中ではモーリシャス及び南アフリカに次ぐ３位であった。

オ　オナトラコム社の負債：オナトラコム社（バス公社）の負債が４６億ＲＷＦ（約７．８百万ドル）に上ることが明らかになった。同社は，ペトロエナジー社（石油会社）からの４億１，２００万ＲＷＦ（約６９万米ドル）の借入を返済しておらず，ペトロエナジー社は同社が１０日以内に返済しない場合は訴訟を検討する可能性を示した。同社は，新興のバス会社の台頭等のため約２年前から経営難が続いている。

（３）外交・安全保障

ア　ＥＡＣ・ルワンダ関係：２１日，カガメ大統領は，ルワンダ平和アカデミー（ＲＰＡ）で開催されるＥＡＣ加盟国の軍司令官クラスを対象とした２週間の合同演習の冒頭において，ＥＡＣの統合過程と言えば，ビジネス，関税等を思い浮かべる人が多いが，安全保障面から軍事交流も必要である旨述べた。

イ　ＮＢＩ・ルワンダ関係：２９日，第３回ナイル川流域開発フォーラム（ＮＢＩ）において，キガリ宣言が採択され，ダーバン（南アフリカ）で開催されるＣＯＰ１７において公表し，各国に技術・資金援助を要請する旨を発表した。

ウ　ＡｆＤＢ・ルワンダ関係：ＡｆＤＢは，カーネギーメロン大学ルワンダキャンパスにＩＣＴ地域センターを設立するため，ＩＣＴ分野における継続的な支援を表明した。本年始めに，ＡｆＤＢとルワンダ政府は，同分野に関連した１，３００万ドルの借款に合意している。

エ　対ルワンダ支援：第１４回共同財政支援レビューにおいて，ルワンダ政府は援助機関からの財政支援が順調である旨公表した。

オ　ＵＮＨＣＲ・ルワンダ関係：第９回ウガンダ・ルワンダ・ＵＮＨＣＲ会合において，ＵＮＨＣＲは，本年１２月３１日予定されていたルワンダ難民に対する難民条約の停止条項発動を来年６月３０日まで延期する旨を発表した。

カ　ＷＦＰ・ルワンダ関係：ＷＦＰがルワンダで実施している「学校給食プログラム（１１郡，３００校が対象）」が２０１３年に終了予定であることから，教育省は本プログラムを独自で全国３０郡に展開する準備を開始した。

キ　国連人間居住計画・ルワンダ関係：１１日，潘基文国連事務総長は，キラボ東部県知事を国連人間居住計画（ＵＮ－ＨＡＢＩＴＡＴ）事務局次長及び事務次長補に任命した。

ク　英連邦・ルワンダ関係：カガメ大統領は，パース（オーストラリア）で開催された第２１回英連邦首脳会議（ＣＨＯＧＭ）に出席した。本会議への出席は英連邦に加盟後初となる。

ケ　ＥＵ・ルワンダ関係：２０日，ＥＵの招待でベルギーを訪問中のルワンゴムブバ財務大臣は対ルワンダ援助の効率性について，適切な財政管理システム，汚職対策，被援助国のオーナーシップが主要因である旨述べた。ＥＵはルワンダとガーナを一般財政支援のモデル国ととらえている。また，２７日，ヨーロッパ人権裁判所（ＥＣＨＲ）は，ジェノサイド容疑者をルワンダに送還することを決定した。６月２８日には，ＩＣＴＲも初めて，ジェノサイド容疑者をルワンダに送還した。これら容疑者の本国送還は，両法廷が，ジェノサイド容疑者がルワンダで公正な裁判を受けることができると判断したことによる。

コ　赤十字・ルワンダ関係：赤十字国際委員会は，タンザニアからの帰還難民向けに東部県に建設していた９４軒の家屋が完成したことを受け，落成式を開催した。本家屋は，水等のインフラ，家庭菜園も付随している。

サ　ウガンダ・ルワンダ関係：ムセベニ・ウガンダ大統領は，本年７月にルワンダを訪問した際の公約どおり，キクチロ郡の学校建設のため，３０万ドルを寄贈した。また，２１日，カバレベ国防大臣は，ルワンダとウガンダの二国間軍事関係強化に関する覚書（ＭｏＵ）の署名を行った。本ＭｏＵ締結は，二国間関係強化につき合意した７月の首脳会談の指示に沿うものである。

シ　ブルンジ・ルワンダ関係：ルワンダ政府は，コンゴ（民）から密輸された鉱物資源（７０トン）を返還する旨表明した。ルワンダ歳入保護局反密輸ユニットが押収した鉱物資源はスズ，鉄マンガン重石，タングステン，タンタル等である。

ス　ナイジェリア・ルワンダ関係：５日から２日間，ジョナサン・ナイジェリア大統領が訪問し，カガメ大統領と主に二国間関係の強化につき首脳会談を行った。

セ　イギリス・ルワンダ関係：５日から６日間，駐ルワンダ英国高等弁務官事務所において，出入国管理庁，歳入庁，弁護士協会，警察，最高裁・高裁の捜査官や検察官を対象にした研修が行われ，事情聴取や陳述書の書き方等について，講義が行われた

ソ　インド・ルワンダ関係：２４日，ルワンダ開発庁（ＲＤＢ）は，インドからの投資がこれまで，１億４，５００万ドル以上，現在交渉中の投資案件が６億ドル以上である旨発表した。インド企業は，保健，パッケージング，建設資材生産，農業の大規模化，ＩＣＴ関連ソフト分野等に関心を示している。

タ　オーストラリア・ルワンダ関係：３０日，カガメ大統領のオーストラリア訪問に同行したムシキワボ外務協力大臣は，ムリガンデ高等弁務官（在京大使）らと，オーストラリアに滞在するルワンダ国外避難民との会合を開催した。

チ　アメリカ・ルワンダ関係：米国上院は，米・ルワンダ二国間投資協定を承認した。これを受け，米国務省は，本協定はルワンダの経済改革に対するコミットメントを証明するものであり，ルワンダの持続的な経済成長と機会をもたらすことになるであろうと声明を発表した。また，アメリカの人権団体であるラントス基金が，映画「ホテル・ルワンダ」の主人公のモデルとなった，ポール・ルセサバギナ氏を表彰することに対し，イブカ（ＩＢＵＫＡ）等の大虐殺からの生存者団体は反対を唱えている。同団体等は，ルセサバギナ氏は日和見主義で，ホテルに人々をかくまったのは金銭をたかるためであり，同氏はＩＣＴＲで有罪判決を受けたバゴソラ大佐とも近い関係にあった旨述べた。さらに，２２日，ジョニー・カーソン米国務次官補（アフリカ担当）は，カガメ大統領を表敬訪問し，二国間関係の他，地域情勢（コンゴ（民）民東部及びアフリカの角），平和維持活動（ＰＫＯ）について協議を行った。会談後，同国務次官補は，ハイチやダルフールにおけるルワンダのＰＫＯの貢献を称賛し，友好な二国間関係を深化させたい旨述べた。

*（注）「ルワンダ月報」は，ルワンダの英字日刊紙「Ｔｈｅ　Ｎｅｗ　Ｔｉｍｅｓ」の報道を当館限りでまとめたものです。記事の中の客観事実は，日本政府やルワンダ政府の公式見解と異なる場合がありますが，当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。*